

『私たちが誇りとするもの！』 コリント人への手紙第二1章12～22節 2016.2.7(礼拝説教より)

『私たちが…あなたがたに対して、聖さと神から来る誠実さをもって、人間的な知恵によらず、神の恵みによって行動していることは、私たちの良心のあかしするところであって、これこそ私たちの誇りです。』 Ⅱコリント 1:12

誰にも見られない生活の中や心の奥底にあり、誰かに見られたり、知られたりすると困ることが、あなたにはあるだろうか？

◆パウロはコリント教会から、訪問予定を変更したことで誤解され、酷い非難中傷を受けた。しかし彼は上記の言葉(1:12)の通り、やましい事、良心に責められることがないばかりか、コリント教会への愛と配慮があったことを弁明した(23節)。「人間的な知恵によらず…」とは、損得勘定や自己都合ではなく、神の前にも人の前にも誠実で打算がなく、ただ神の恵みに感謝して行動していることの証である。「人はうわべを見るが、主は心を見る(Ⅰサムエル 16:7)」とある。聖なる神に、一人にいる時も、心の奥を見られても、汚れたもの、不純なもの、恥ずかしいものを見られない人は幸いである。パウロは、誤解や非難中傷の中、「神と人の前に、聖さと神から来る誠実さと、良心の呵責がない生き方こそが自分の誇りだ！」と明言した。神の恵みが、自分をこのような人生に招き入れてくださったと！

◆パウロは自分への非難中傷が、彼が伝えた神の救いにまで及び、福音までも否定されたのを聞き、すぐに弁明した！旧約聖書を通して約束されてきた、神による罪の赦し、救いの計画、永遠の祝福の約束は、イエス・キリストにおいてすべて実現した(「しかり」となった)と。パウロを否定するのは仕方がないとしても、福音を疑い、キリストを否定する時、あなたの救いの道は閉ざされ、自分で自分の首を絞めることになる！と。『神の約束はことごとく、この方において「しかり」となりました。それで私たちは、この方によって「アーメン」と言い、神に栄光を帰するのです(20節)』。「アーメン」とは「真実！偽りなし！本当です！」の意。御子を世に遣わされた神の本気の愛を、あなたは知っているだろうか？絶対に変わらず！裏表なく！真実で偽りもない神の愛は、イエス様において現され、信じる者を決して裏切ることがない！この神の愛を信じた者は、この愛に支えられ、本音と建前の違いがなくなり、陰日向なく、陰口や悪口もない、聖く、誠実な生き方を誇りとする人生へと変えられていく！

★あなたとのぞみ教会が、神と人との前に、真実であり続けるために、あなたに何ができるだろうか？